明治廿八年一月二日印刷
明治廿八年一月四日發行

婦人衛生雜誌

第六拾貳號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第六拾貳號
目次

講演
●浴湯の話　宮本仲君
●首下り病取調報告
衛生叢談
●二十八年を迎ふ
●藁灰繃帶の實驗
●人類の年齡と事業の關係
●醫者の氣轉
●惡症の感冒流行
●大日本婦人衛生會々況
●廣告數件

大日本婦人衛生雜誌
第六拾壹號
目次

講演
●吾等同志從軍夫卒救護の要旨（前號の續き）　醫學士　田代義德君
●日淸戰爭と生徒の衛生（前號の續）　醫學士　三島通良君
衛生叢談
●寒時衛生法
●日淸両國兵体格の比較
●有馬軍醫の軍歌
●軍夫救護病院の建設
●新繃帶具
●電話口よりの病毒傳染豫防法
●牛痘を朝鮮へ送る
●諸會の景況
●廣告
其他數件

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第六拾貳號

（明治二十八年一月四日發行）

講演

◉浴湯の話（十二月一日於富士見倶樂部開婦人衛生會納會）

宮本仲君

私は毎度ながらも亦た御斷りを申上げなければならぬとは甚だ相濟みませぬ次第てありますが、他に色々用務が御座いますので、前から演題を定めて御話の材料を深く考へて居る暇が御座いませぬ。ソレ故毎も面白い御演説を申上げる事の出來ないのは甚だ遺憾で御座います。又皆樣も、定めて御不滿足で有らうと恐察致します。ソコで今日もドウ云ふ御話をしたら宜からうかと思つて、種々心配をして見ましたが、別に是れと云ふ考案も御座いませぬ。唯餘り近頃は御寒いに就きまして、御湯の御話でも致したらドウて有らうかと思ひつきました。抑も入浴と云ふ事は、からだに利益の有る事か、害の有る事かと云ふ事は私の申上ぐるまでもなく、皆樣も御實驗上能く御承知の事で御座いますが、併ながら其冷熱度の上に關しての話は多少御聽き置き下されても宜しいとがあらうと思ひます、一体日本では昔から熱い湯に入浴する習慣で有りましたが、近年に至り追々微温い湯が尤も宜しいとか、或は水を浴びるのが身体の藥であるとか、熱い湯は害になるとか云ふ説が日新の効果より起ッて參りました夫れ故、往々從來の慣習を一變して態々水を御浴びになる方もあり、或は殊更に微温い湯に御這入りになる方も有りま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

す。而して浴法には種々樣々の形のものが出來て參ッた折で御座いますから、御湯の話も一度は御聽きになつても無益ではなからうと存じ少しく其の御話を致さうと思ひます。

第一に湯の種類を申して見ますれば、温泉即ち鑛泉湯、鑛泉湯と一樣に申しましても、諸所の温泉場に依りまして其含んで居る藥の種類自ら違うのでありなす。又温泉といふても、磯邊の如く泉から出づる冷たい水を汲み上げて沸かす湯も有る。之等を總括して鑛泉と申します。併ながら温泉と云ふ位で有りますから、多くは自然と泉から熱い湯が涌き出づるので、浴場ではソレを家の中に引くので有ります、併し此の鑛泉は日常お互ひが行浴に供するものではない通常は何も含んで居らぬ眞水を汲み上げて沸かす湯であります其外に浴と名くべき風呂の種類を御話すれば、海水浴、蒸氣浴、砂浴、藥湯等で又た其行浴の仕方にも全身浴半身浴、局處浴、坐浴、腰浴等種々の形が有りますが、細く言ふと大へんに廣い事故畧します、浴の應用、浴の利益は迚も御素人方に一朝一夕に御明解ある樣にと御話し盡すことは六ケ敷い。且つ又温泉の事などに就ては、前々にも諸君かの御演說が有ッた樣に思ひますから、今日は其等の事は大に省きまして、専ら眞水を沸かした處の浴湯に就てのみ御話仕樣と思ひます。

眞水を沸かす處の浴湯にも、各自の家に於て立てる風呂と、市中の湯屋との二通有ります。尤も市中の湯と總括して申しても、前申した通り其中には眞水ばかりでなく藥浴と海水浴とが有る。或は鹽を入れたる湯、或は淺田宗伯老の流義の人參湯

とか葛根湯とかなんとか云ふ湯が市中には間々有る。若くは諸方の温泉の湯花を取ッて來て、ソレを水に溶いて沸かして藥湯と唱すものも有ります。而して市中にて藥湯と云ふのは、温泉と同じ効能で有りますから、是れは人が垢を流し、若くは温を取らうとする目的が重もではなく、寧ろ病を療はすと云ふ目的を以て這入るので有りますから、是れは又別として後日のとに讓り單簡に眞水の風呂の御話だけを致すので有りますから、其思召で御聽き取を願ひます。

デ此眞水の湯と云ふのも、其温度に由て細く區別を立てゝ見ますれば、強冷浴、ソレから冷浴、微冷浴、次に微温浴、温浴、強温浴、熱浴抔と分けらるゝので有ります。最も甚だしいのは氷冷浴と云ふて、氷水程に冷たい浴も有ります。是等の事は皆様方には餘り必要もあるまいと思ひますが、大畧温度の區別を申して見ますれば、氷冷浴と云ふのは、攝氏の寒暖計で零度から五度までのものを云ふ。攝氏の寒暖計と云ふのは、醫師が病人に用ゐる分で、通常皆様の御遣になりまして室内に御懸け置のは華氏の寒暖計で有ります。華氏の寒暖計は三十二度が氷點で夫より百八十度に昇りて沸騰點を置いて其間に細く度を置いたので有ります夏の頃今日は九十度に昇ッたの、九十六度になッたのと云ふのは、華氏の寒暖計で有ります。攝氏の寒暖計は零度から百度までに分けて有りまして、零度以下になれば勿論氷ります。此攝氏の寒暖計で零度から五度までを氷冷浴と云ひます。序でに書物などを御覽になる折の御注意に、モウ少し寒暖計の事を申して見ますれば、攝氏華氏の寒

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

暖計の外に、モウ一つ列氏の寒暖計と云ふのが有
ります。獨逸邊では室内にも亦た湯の度を計るに
も多くは列氏の寒暖計を用ゐます。列氏の寒暖計
と云ふのは攝氏より粗らく、八十度に分けてある。
故に華氏の九度は攝氏の五度列氏寒暖計なれは四
度の比例に當ります。若し書物などに列氏の寒暖
計で二十六度二十八度とか云ふことが書て有ッた
ときは、攝氏で三十二度半か卅五度かに當る、或
は華氏なれは九十度餘か九十五度に當ると各々幾
らと比較して往かなれば寒暖計に從ッて解りませ
ぬ。私は玆に攝氏の寒暖計の度で御話しを申し
ますから、他の寒暖計を御用ひの方は前に申した
様に之を比算して御覽になれは明かです即ち其氷
冷浴の外に強寒浴と云ふ極く冷たいの丶温度が五
度から十度、寒浴は十度から十五度、弱寒浴が十
五度から廿度、冷浴が廿度より廿五度まで、微冷浴
が廿五度から三十度まで、微温浴が卅度から三十
五度、温浴が三十五度より三十八度、是れが歐米
などで尋常這入る温湯の定度で有ります、私抔も
在歐の頃は大概三十七八度のものに入りましたが
歸朝後は又た再び段々と熱浴に返りました而して
熱浴と云ふのは、三十八度より四十二度、ソレか
ら、四十二度以上の温度は強熱浴と云ひます。此
熱浴殊に強熱浴か日本人の尋常這入る浴湯の温度
です實に我邦人に於ては近來は兎に角、其以前に
有ッては、熱浴以下のぬるま湯に這入るものは殆
ど一人も有りませぬでした。併なから斯樣に浴の
温度を細別して御話をした處が、皆樣には餘り必
要も有りませぬし、亦委しく御話をした處が、御
覺へ惡くもあると思ひますから、細かい事は止め

まして、唯解りよき樣に、熱浴、温浴、冷浴と三つに區別して申さうと思ひます。

○冷浴と申しますのは、体温を却て引き下げる處の行水で尋常体温より著るしく下がッて居る浴で有ります、○温浴と云ふのは、自分の体に極く適當したる温度を持ッて居る浴で御座います。又た熱浴と云ふのは、自身の體温より高度なる故、却ッて身體を温めるので、所謂體温を昇進せしむる所の浴で有ります。此三通の浴の御話をするに就ても、湯殿即ち浴室の構造が大に關係を有する處で有りますから、先づ初めに湯殿の構造を御話して置かなければなりませぬ。

湯殿の構造は皆樣御承知の通り、御自宅の分は四疊半とか廣くも八疊又は十疊敷位ゐの一室で、四方は壁と雨戸とにて閉塞し窓と戸口とに依て空氣の流通を附け其内に普通の風呂桶若くは箱狀の浴槽が置いて有ります。此桶の種類にも亦た種々ありて尋常見る浴槽の外に鉄砲風呂とか五衛門風呂とか或は喜多八の這入ッた風呂形だとか云ふのが色々有りますが、其御這入りなさり方は全身浴半身浴などあれどもソレまでは申さないでも宜しからうと思ふ。而して其床は多くは板間なれとも又は石敷、敲き等もあり四方は、風通しの烈しく無い樣に閉て切ッて有りますなれ共烟の籠らぬ樣に風ぬきに注意してあります而して夏暑い頃にでもなれば、窓でも開けて風を入れる事か自在に出來る樣になッて居る。冬寒い時分なれば密閉して、湯が沸いて來ると、蒸氣が風呂場に籠ると云ふだけの事で、別段に替ッた事はない如何にも巧者に出來て居るのか有ります。市中の湯屋の構造は、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

浴湯の話

昔は湯の溫氣を保つ爲めに石榴口と云ふて、湯風呂の這入口の上から、覆ひ圍んだ樣になつて居りました。今日でも、斯う云ふ構造の湯屋も無いでは、有りませぬが、人が嫌がりますから、多くは其額の樣に上から下がッて居るものを取り捨てゝ仕舞ひました。市中の湯に御這入りになッたことの無い方は御存知が有りますまいが、此石榴口の附いて居る湯に這入りますと、非常に顏面が熱蒸して追々と逆ぼせて來ます。西洋には魯西亞浴と名けて蒸氣浴が有りますが、是れは一室に湯蒸氣を保ちまして、ソコに這入ッて、蒸氣でからだを溫蒸めますと漸々發汗して來るので、自然と体の垢が浮んで來ます、ソレを石鹼で能く磨り湯を浴ひて流しますこと、全く入湯と同しく致し奇麗になります。而して其出で際に水を沐るものもあり種々の仕掛けありて甚だ愉快のもので常の入湯よりも贅澤のものです、日本の石榴口の湯は丁度「ロシヤ」浴に這入ッた樣に蒸されます「ロシヤ」浴と違て甚た不快です。而して湯の中に這入りなすると、甚だ尾陋な事で、貴婦人方の御前で御話申すのも失敬で御座いますが、一寸でも洗ひます樣に親も子も他人も皆一處に這入ッて居ります。勿論男女は浴場が區別して有りますが、昔はソレすら混同で有りました。「ロシヤ」浴の如きは一室壹人若くは二人(友人など相伴)なと數名に超ふるなきも市中の浴場は前に云ふ通に、親芋子芋ゴロ〳〵と一處に這入ッて、ソレは御互に蒸した强い空氣を呼吸して出て參るから不愉快に感ずる筈です又た冬の頃は四方が閉て切ッて有りますが、夏から寒くなるまでは、二方三方明け放して空氣の流通か

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

何方からも強烈すぎるやうになッて居る。殊に天井と云ふものはなく、屋棟は大へんに高く、恰も大きな小屋のやうな處に一つの蒸風呂が有ると同じ樣な譯で、風呂內に這入ッたときの有樣と、流しに出たときの有樣とは大へんに溫度の相違が有るので御座いますから間々風を引き易い。ソレから近來開化した處の湯屋は石榴口を取ッて仕舞ッた、よし石榴口の形は在つても、前の方に出て居る廂のやうな板を取ッて仕舞ひましたから、空氣は充分に蒸氣と交換して、決して蒸すやうな事は有りませぬ。唯通常外と內と平均するだけの空氣の壓力、即ち寒い處と、熱い處とは、空氣に密なると疎なるとの差は有りますが、ソレは平均するだけに籠ッて居ります。故に今日では、石榴口の中に這入ッて眼眩して、助け舟を呼ぶ樣な事は少ないが、昔は之が爲め腦貧血を起して一時昏倒するやうな事が屢々有りましたそうです。今でも時として全く無いではないが滅多には有りませぬ。ソレから日本の湯の習慣と云ふものは、浴湯內に入ッて垢を充分に柔げて置いた上で外即ち流しに出て石鹼を遣ッて洗ひ落すので有りますが、西洋ではサウで無い、西洋の浴室內の有樣は御承知でも有りませうが、浴室に上等、中等、下等と有りまして、何れも湯は一人〳〵に流して仕舞うて新に仕直すので有ります、而して室內には其等級に應して絨緞など相當の敷物が布いて有りまして、風呂舟が一つ、椅子長椅子鏡臺等が具て有る、上等は風呂桶の內にも切が敷いてあります。中等は敷いてある處もあり、無い處も有る、下等は無論無いので有ります。室內とても敷物が必ず布い

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

てあると定ッて居るのでは無い、布いて無い處も有ります、湯に這入る時には手拭石鹼等は勿論、湯上げの切を借して呉れまして、ソレで汗を拭き或はからだの濕を取ると云ふ樣な便利になッて居ります、湯に這入る前には三助が貴君は何度の浴溫と云ふ事を聽きに來まするから、攝氏なれば三十七度とか、八度とか又は列氏なれば二十五度とか二十八度とか云ふ事を命令します、左すれば、チヤント三助が寒暖計を入れて計ッて置きますから、毎でも一定の溫度の湯に這入ることが出來ます。又這入ッた後ちも自由に自分が捻を動して熱ければ水を入れ、微溫ければ湯を入るゝことも出來る樣に爲て居る。ソシて自分の出るときは栓を除きて流して仕舞ひます。ソレを不慣の日本人が日本の習慣の通りに、風呂桶の外でからだを濕して、後這入るとか又は中の湯を汚さないやうにと思ふて、流しに出て湯を遣ひ絨緞を水だらけにして、三助に罰金を取られたとか、或は湯から上がッて外で石鹼を遣ッて室內を水だらけにして仕舞ッたといふやうな、彌次喜多の御話に似た事などもあるソーです日本では「湯中でぬか袋無用」などゝ張札をするのに西洋では斯くの如くなるとは大に風俗が異ッて居ります此に就てモウ一ッ御話して置きたい事は、西洋の湯で有りますれば、一人つゝ其都度流して新たに仕換るものでありますが、日本の湯では稀にサウ云ふ御注意の御方も有るかも知れないが、先づ普通の處では、主人より初めて、家族悉くが入ッて一番後で女中が入ッて掃除をすると云ふやうになッて居る。それですから西洋では浴桶中にて垢を流し日本では風呂の

流し場が必要となる道理であります、然して又市中の湯は如何なる人又は病人が這入ッてもなんでも、中途で取り換へると云ふことは致さないから、隨分見苦しき腫物などの澤山出來た者が入ッた後では、已を得ず其中に混浴せねばならぬ場合も有ります、勿論上り湯と云ふものが有ッて、ソレを浴びて清淨にして出て參るのでありますが未だ此では不十分です。斯う云ふ事は常には別に必要も無い様ですが傳染病流行時等に方て入浴されたときの御注意までに申上げなければならぬのでございます。

此湯浴と云ふものは、ドウ云ふ効用が有るかと云ふに、湯の温度の强弱と入浴時間の長短と入浴の爲め皮膚に觸接する物質、例之は温泉、海水或は藥湯等其の含容性分が皮膚に觸れるの類と、ソレから身体を不潔にするもの即ち汚垢を流して、皮膚の機能を順にすると此四五の要點に就て大に關係を有するもので御座ゐ升。

却說第一に温度で有りますが其温度は前に御咄した様に大体を三つに區別して、其中の冷浴と云ふのは、我日本に於ては從來より行者の水垢離か又は病人の水治法などで無ければ餘り行ひませぬ尋常人は概して水浴したことがないであらうと存ます、病人にしても漢法流では水浴はない唯西洋派の治法にて病人の熱を冷す様な時に、冷浴をする位に止りて居るのでございます。然るに西洋人は通常多く冷水浴を行ふ風習です併し人々皆な冷水浴に入るかと云ふに、サウも限りませぬ。實に彼方の人は婦女子も亦た冷水に浴するを決して不思議に思はざるのみか隨分廣く行はれて居ります。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

浴湯の話

蓋し冷浴に入ッた時と、温浴を行ッた時と、又た熱湯に浴しました時とでは、其名に從ッて自分の心氣作用などに多少異る處は有りますが、先づ總括して見れば大同小異で著しき差異も有りませぬ。尋常日本人か一般に這入ります處の湯と云ふものは古來の慣習として、温浴と熱浴との間で有りますが、歐米人は温浴若くは微温浴の度をば越しませぬ、私共の這入る湯は、近頃寒い時候で有りまするから尚更熱い度を好みますソコで私は我々が何度位の湯に入るだらうと思ッて計ッて見ました處か、私の常に入浴しまする湯は、丁度攝氏の四十二度乃至三度で有ります、私は四十三度前後の湯に這入ると、最も快く感じます攝氏の四十二度は、列氏の三十三度强ばかりに相當します。列氏の三十三度と申しては餘程熱い湯で有りまして、歐米の湯屋抔で三助に此度の湯を命したら驚いて仕舞ふ位で西洋人は療治の目的でも無ければコンな湯には這入らぬのです

次に日本の小兒は其各自宅の浴室にてドの位の度に於て入湯するかと計ッて見ました處が平均四十度乃至四十一度の湯に入ッて、左程熱いとは思ひませぬ。又私共の車夫などの這入る湯は、四十四五度位で又た市中の朝湯と云ふ動働者などが好んて入浴するのを撿ッて見まするど、大体四十五度以上、四十七度許の湯で有ります。攝氏の四十五度から四十七度と云ふのは、通常皆樣の御室房で御用ゐなさる華氏の温度で云へば、其割合は百十二度から百十五六度位になります。デ攝氏の四十度と云ふ温は、華氏の寒暖計では、百〇四度の温になります。百度以上の温は隨分に熱いもので、

盛夏三伏の酷暑でも尚は華氏の寒暖計九十一二度で此の温度にありまするど、皆様は非常に熱く御感じ遊ばす、九十五六度位になると、最早少しも動けない位の熱暑だなど丶申します。然るに其上に殆ど二十度も加ッた暑さ、即ち百十二三度からの温と云つては、非常に熱い湯といはなければならぬ。西洋人などは四十五度を强熱浴として、療治上稀に用ゐるのみで、尋常は決して用ゐませぬ。日本人は斯様に熱い湯に入りまして驚くべき様ですが此皆從來の習慣に依るもので毫も障害とする所はありませぬ。

右様浴湯の温度を計り三種の大別を附けましたが其三種の中冷浴のとは後とに廻して先つ温浴と熱浴とから先さに少々申上ましよう即ち温浴と申しますのは、三十五度以上三十八度迄を其の境と定めて置きます。就て人間の体温と云ふものは、ドの位ゐかと云ふに、大概は三十六度五分から三十七度五分以下の温度で有る。けれども時として、發熱に非らずして三十八度位ゐの温を保ッて居る人も有り。又ソレに反して健康な人でも朝三十六度少し下り、夕方三十六度少し昇ると云ふ程の低温なる者も有ります併し實驗に由れは三十六度半から三十七度餘の間が通常の體温で有らうと思ひます。即ち温浴の温度と、人間の體温とは同じで有る故に温浴は湯に於いて体温を奪ッて寒く感せしむる作用はない、亦身體を温めて、體温を昇らしむると云ふ作用も御座いませぬ。故に湯に這入ッた爲めに異様の感覺は起らない、例之は入湯中皮膚の神經を刺激して、寒温を感せしむるとか脈を進めしむるとか、呼吸を盛にするとか云ふ様な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

著しい變常をは覺えませぬ。唯身体の周圍の濕ッたと云ふことを感ずるだけで有る。併し熱浴の方は少々違がふ、あれ共我々は生れた時から此強熱浴に這入ッて居りますから、永年の習慣として、冷浴よりも温浴よりも熱浴を一番快と致します温浴に入る如きは一時は大へん快い心持で有るが忽ち三四分も經ちまするど、冷めたい樣に感じて來ます是れは湯の方に變化が有るのでは無い、熱浴に這入ッて居ッた習慣よりして、其の温い樣に覺へるのみである原と温浴は体温と同等で有るから入浴の爲めに体温に變化するとなし唯た皮膚に分布する周圍神經の機能を多少は催進するとあるも然れとも中樞に及んで其神經を刺激するとは殆んと無く從て呼吸運動を催進したり血液の循行を強盛したりなどする樣な變は一向有りませぬ又た皮上の刺戟もなく、体温をも昇上せず降下もせぬ故、從ッて又た長く浴して居りましても、ソレが爲めに甚だしく逆上するとか、眩暈を起すとか云ふやうな事も無い。併ながら此温度を感ずるのは浴湯との關係にあるばかりでなく、其周圍なる室内の狀況が大に關係を有して居る即ち室内に充分湯氣が閉ぢ籠ッて居ッて、空氣が流通しませぬときは、同じ三十七度でも、大層に温かく感じます。之に反して、若しも外來の空氣が流通する處あれば、比較に冷く感ずるやうになります。斯くの如く室内にも、多少關係しまするから、一樣には申されませぬが温湯は兎に角快く感ずる故に温和浴と申します。サウ云ふ湯に這入ッて皮表を濕し汚垢を柔らけソレから風呂の流し場に出て、石鹸糟等の類を以て垢を洗ひ流すので有るが。一

体入浴はドウ云ふ必要があるかと云ふに、先つ身体皮表の垢穢を去りて之を清潔にし以て皮膚の機能を好良ならしむる事、而して又入浴すれは適當の温度に接して快き感じを起す、殊に大變疲勞たる時などに入湯すれは体内の新陳代謝機の増進する爲めに能く其憊かれを回復します新陳代謝と云ふは身体の中の陳い不必要の物質を洗ひ流して、新らしき營養を以て補ふと云ふ作用です温和浴に這入ると、今云ふただけの利益が有るので御座います。反之若しも湯に屢々這入らないで居りますと、眼には見へませぬが、大へんに垢が溜つて、皮膚の作用を惡くし、皮膚の蒸發氣をも妨げるから、からだの中の惡るいものを排除する事が出來なくなる、ソレに從ッて氣分は不快になり風邪をば引き易く總て病氣の原因に爲り易い。皆様も御承知の通り支那人は非常に不潔で有るが中には唯た顔と手とを洗ふ位に止りて、一年も二年も湯に這入らぬものが有るさうで御座います。倘は驚くべきは、青山博士や又た愚弟などの話に、支那人は實に不潔を嫌はぬ否な好む様で衣服の如きは新たに買ッた時より、着古して、殆ど雜巾の如くになるまで、一回も洗濯と云ふ事をしない。垢の溜ッたのをは少しも厭ふことなく、反つて洗濯をして、地質の切れるのを惜んで、其儘で三年も五年も一つ着物を着て居ると云ふ風で有ると「ペスト」病調査報告のときに聞きました。しかしソレも新調したものなれば未だ宜しいが、古着を買つた上に倘は五年も三年も洗はずに着て居るのでは、古着の時代がドの位ゐで有ッたか解りませぬ。畢竟斯様に身体も着物も不潔にして居るからして、彼

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

の恐るべき黒死病など〻云ふ病氣も流行するので北里博士の報告に依れば清淨は黒死病豫防の一策です病氣の他にも、虱とか南京虫とかの不潔極まる虫類も生ずるので有ります戰爭に負けるのも無理でない。ドウしてもからだを清潔にし、着物を奇麗にして居らなければ、傳染病を防ぐ事か出來ませぬ。從て健康に害あるとは理の當然故段々と愚になり弱くなります眞に衛生は富强の基である故です

◉首下り病取調報告

帝國大學に於て過般學術上取調のため青森縣下へ出張を命ぜられたる醫科大學助教授三浦謹之助氏より差出したる首下り病研究報告左の如しと　（官報）

首下り病研究報告

本病を首下り病と稱するは流行地方の俗稱にして其症候の主なるもの則ち頭首の下垂を名狀したるなり余は今回の研究に由りて始て本病は瑞西國チエチーブの近傍佛國に隣せる地方に流行せる俗にトルニッケーと稱し嘗てヂエルリエーが千八百八十六年に於て麻痺性眩暈と命名せるものと同一なることを證明し得たり故に余は首下り病を以てヂエルリー病と稱するを適當なりとす如何となればMaladie de Gerlier及Gerlier's che Kranpheit なる語は既に一二の學者の使用せる所にして且つ麻痺性眩暈なる名は穩當ならざるを以てなり

本病の地理的曼延區域は他日詳細の調査を遂ぐるにあらざれば之を明言する能はずと雖も余が今回調査し得たる所にては青森縣下に於て三戶郡内此

病を出す最も多く上北郡之に亞ぐと雖も小河原沼以北は少く下北郡及津輕郡内に至りては余未だ之を知らず巖手縣内に於ては二戸、九戸の二郡に最も多く其他は未だ詳ならず秋田縣内にも或は本病の流行地あらんかの疑を存すれども未だ之を知る能はず流行地方に於ては殆ど此病なかりし村落なしと云ふも不可なきが如し目下流行せざる所と雖も以前は之ありしと云ふ者多し（別に流行地を記載せる地圖あれども今之を略す）概して本病は村落に發生し市街には殆ど之なし唯村市又は市街の僻偶に在りて半農半商なるもの或は農業九分商業一分なる者に本病を見ることあり

本病は何の時代より該地方に流行せしや詳ならずと雖も口碑に傳ふる如くなれば其甚だ古きものたるや疑を入れず或は曰く昔し此地方に住せし土人此病に罹り後方今の住民此地に入るに及びて亦此病に感染し首下りと爲る者は土人病に罹れりとして賤められたり故に本病は土人、祭を爲せば治すと又曰く本病は其初地方の一二僻村に限局せしも漸次蔓延せりと是れ皆古老の稱する所なれども今日に至りては其確實なる證跡を得る能はず

歐洲に就きて始て本病の精細なる記載を爲せしは瑞西國フエルチーに於けるチエルリエーにして同人は千八百八十六年則ち我明治十八年に於て一種奇樣の發作性に發する疾病にして項筋及其他の隨意筋の不全痲痺、項部の疼痛、眼瞼下垂、視力障害等を起す者あることを報告し之に痲痺性眩暈の名を冠せり又ダウイッドは本病を眼瞼下垂性眩暈と名け前者の報告を確めたりしが唯同人の實驗せる患者には項部の疼痛を訴ふる者なかりき次でア

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ルテノッフ及エベロン等も亦同病に就きて報告を爲せりと雖も其詳細は之を他日の報告に讓らん本邦に於て始て本病に就きて報告を爲せしは八戸町の醫師中野健隆とす（醫事新聞第二百五十九號明治二十一年刊行第八號三月十五日發兌並に東京醫事新誌第五百二十一號明治二十一年三月廿四日）次で小野寺義卿の報告あり（東京醫事新誌第八百四十三號明治二十七年五月十六日並に東京醫學會雜誌第八卷第十一號明治二十七年六月五日發行）

本病の發生は大に時期に關するものにして冬時に於ては殆と之なく氣候の溫暖なるに隨ひて其數を增し五六月（舊曆四五月）田植の際及九月十月の交（舊八九月）田野の穀物を刈取るの際を以て最も多しとす七八月は前後四箇月に比すれは患者の數僅少なれとも全く絕ゆることなし余は本年七月上旬より八月上旬まで彼地に滯在せしを以て適當の時期を失したりと雖とも尙は六十九人の患者と六回旬發作とを目擊するを得たり蓋し本病は發作性なるか故に發作時間に在る患者を診するは易しと雖も發作時に遭遇するは頗る難く隨て本病の研究は他病の研究に比して困難なるものあり且つ本病は每年其病勢を同くせす虎列刺、腸窒扶私等の病多きときは本病も亦隨て多く他の傳染病の少きときは本病も亦隨て少しとす氣候の寒溫、乾濕等は此くの如く本病の發生に關係を有すと雖も老壯男女の差に至りては毫も之あることなく白髮の老者も襁褓に在るの兒も敢て之を殘すことなく加之犬、猫、鷄、馬等の家畜に至りても亦此病に罹ることあるもの丶如し

本病の症候を論ずるに當りては先づ發作時間と發

作時との區別を立てざるべからず而して乙者は則ち本病の主要症候にして本病を診斷するに最も必要あるものたるを以て先づ之を論述せんとす

首下り病は發作性に起り其發作は先づ項部及背部に於ける壓重、疲勞の感覺又は腹部無力にして上腹部と下腹部と相近き恰も空腹なるが如き感覺を以て始り次で左の症狀を呈す

第一　眼症候則ち眼瞼下垂、視野朦朧、複視、眼底充血

第二　頭首の下垂

第三　舌、口唇及咀嚼運動障害

第四　軀幹及四肢に於ける不全麻痺

以上四症候中第一及第二は本病必發の症候にして殊に第一は最も必要なるものにして時としては唯眼瞼の下垂と視野の朦朧とのみを發することあり若し唯頭首の下垂のみにして第一の症候を發せざるときは他の疾病に疑を置かざるべからず余は嘗て頸椎骨のカリエス及筋萎縮性側索硬化の主として頸髓上部を侵せる者にして頭首の下垂せるがために首下り病と看做されし者を實驗せり第三及第四は發作重症ある者に於てのみ見る所の者にして輕症ある者には之なし唯手腕を勞動する者に於ては最初に手腕の麻痺を起すが如きことあれども第一及第二の症候を併發するを常とす本病に罹れる患者の發作は終始輕度の者あり或は忽にして重く忽にして輕き者ありて毎發作時に起る症狀は千變萬化一定せざることあり故に本病の發作は必しも以上の四症候を呈するものにあらずして種々に之を組合せたるものなり

余は左に以上の四症候を細論せんす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第一　眼症候（眼瞼下垂、視野朦朧、複視、眼底充血）

眼症候中最も早く現るゝものは視野の朦朧及複視是なり次で眼瞼下垂するものにして眼底の充血に至りては其何の時に於て發するやを詳にせず

眼症候中最も後に至るまで殘留するものは眼瞼下垂にして首下り病に罹れる患者は發作時間と雖も多少之を呈することあり

發作の始に當りて患者は物體を凝視すること能はず強て凝視せんと欲するときは忽ち朦朧不分明と爲り例へば字を書するに當りては則ち字畫混亂し草本人物を視るも亦其細密を辨ずる能はず一人の佇立する者は恰も二人の如く一本の柱は二本或は三四本の如く且つ眼前霧を蒙むるが如く薄布を以て覆へるが如く一物も之を明視する能はざるに至るが故に患者は遂に閉目して發作の經過を待たざるべからざるに至る加之眼瞼は漸次下垂して角膜を蓋ひ全く光線の眼内に透入するを防ぐるに至る此視力減少、視野朦朧は主として患者に接近せる物體を注視するに當りて最も甚しく遠方の物は稍々之を明視するを得るもの丶如し

此時に當りて瞳孔を檢するに中等大にして（尤も光線の强弱に由りて差異あり（光線竝に調節に對する反應に於て敢て異常あることなしと雖も眼球の運動に至りては左右に向ひて稍々不十分なるありて角膜の外緣は全く内外眥に達せず發作の强弱に從ひ多少其間に白色部を遺すことあり或は殆ど之を認むる能はざることあり（本病の患者に就きて球眼の運動を檢するには多少上眼瞼を擧上せさるべからず）

本病に於ける複視に於ては眞像と虚像との距離甚だ著からず相接するが如しと云ふ者多し且つ其交互の高さに於て差あることなし眞像と虚像と相交叉せるや否に至りては確答を得ること難し

發作時間と發作時とに於て遠點、近點を檢するに甲は著しき差なしと雖も乙は眼より遠かり其遠かりたる點に於ても尙ほ數秒時にして字畫の朦朧たるを免れず

發作時に於て眼底を檢するに視神經乳頭に於て動脈的並に毛細管的の充血を呈し乳頭は一般に充血すと雖も生理的既に赤色なる部分乃ち乳頭の內側に於ては殊に著しく周圍に至るに從ひて漸次減少し網膜の視神經を去る半乳頭に於ては殆と充血を見ず而して此充血は唯發作時に於てのみ存在するものにして間歇時に於ては敢て之を見ることなく且つ發作時と雖も兩眼齊しく充血することなく或は一側に於て強く他側に弱きことありとす又充血の度は視力減少、眼瞼下垂及其他の症狀と敢て平行せざるものゝ如し

以上記せる所を以て視力の減少及複視の由て起る所以を推考するに視神經及網膜の充血は以て視野の朦朧を說明する能はざるべし何となれば視神經及網膜の充血を起す他の場合に於ては視力の減少此の如く甚しきことなきが故なり之に反して眼筋の不全麻痺と調節機の障害とは共に視野の朦朧と複視とを說明し得べく彼の字畫を凝視すれば忽ち之が混亂不明を來すが如きは大に神經衰弱患者に於て見る所の症狀と相似たるものあり眼瞼下垂は本病に樞要なる症候の一にして視力減退に次ぎて起り發作輕快するも尙ほ殘留し加之間歇

時と雖も多少其痕跡を止むることあり今發作時に於ける上眼瞼の下垂を記載せんに始め角膜の上端少許を覆へるもの漸々下降して瞳孔の上縁に至り次で其中部に達し終には全く之を覆ふに至る而して患者は前頭筋の力を藉りて之を擧上せんと欲し前額に皺襞を作ると雖も充分なる能はず強て物體を見んことを欲せば手指を以て眼瞼を開かざるべからず　試に指を以て上眼窩縁を壓し前頭筋の作用を防ぐるときは患者は毫も眼瞼を擧上する能はず亦以て眼瞼擧上筋の麻痺せるを知るべし眼瞼の下垂は左右常に同からずして左方に於ては右方に於けるより甚だしきを以て常例と爲すを得べし發作時と雖も色の辨識力及視野の境界に於ては異常あることなし唯視野の上部を檢するに當りては眼瞼を擧上せしめざるべからざるや明なり

第二　頭首の下垂

是れ亦前述せるが如く本病の主要なる徴候にして前屈して勞働する者に於て最も起り易しと雖も直立の位置に於ても亦發作時には頭首の下垂を來すものたり是れ頭部の重點は後頭骨載域關節の前に落つるを以て項筋弛緩して頭首(重量大凡二瓩)を維持する能はざるときは遂に其下垂を免れざるなり

患者若し身體を前屈して勞働するときは(例へば田植、田の草取、雜巾掛け等の如し)暫くにして(病の強弱に從ひ十乃至數十分の後)先づ項部に壓重の感覺を生じ恰も重量を項部に載せたるが如く或は他人の力を極めて項部を壓するが如き感を生じ遂に之に堪ふる能はずして頭部は前方に垂るゝに至る此等の患者は遠く之を望診して其何たる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を知ることあり即ち健康なる農夫が稻苗の間に在りて田の草を取るときは其冠く所の笠は斜に前方に向ひて傾き地平線と大凡四十五度の角度を成し笠の後端は項部を蔽ひ日光の射入を防げり然るに首の下垂せる患者にして强て此等の勞働に從事する者の笠は地平線と殆ど直角を成し項部は日光の射る所と爲るべし故に本病に罹れる患者は皆項部の著しく暗褐色なるを認む既に首の下垂せる患者に於ては前屈せる位置に於て之を擧上せんことを命ずるも能はず强て之を爲さんと欲せば手を以て支へ或は身體を直立して首を後方に投ずるが如き運動を爲さゝるべからず頭部を左右に囘轉する運動も亦發作の强度なるときは自由ならず多少障害を被るなり頭首の下垂せる患者の項部を撿するに後部結節の直下に於ける諸筋は悉く弛緩し手指を以て之を壓するに軟弱なれども項靱帶、僧帽筋の外緣及肩胛擧筋は緊張して著しく隆起するを見る夾板筋は强度の發得に於てのみ脫力し輕度の者に於ては著き變化なきものゝ如し發作時に於て副行神經、僧帽筋及夾板筋の感傳並に平流電氣に對する反應を試驗するに敢て發作時間と相異なることなし唯其深在せる項筋に至りては素より電氣反應の如何を知る能はざるなり

以上記する所に由りて頭首の下垂する所以を考ふるに頭首の下垂は主として深部項筋の痲痺にして則ち後大小及側直頭筋上下斜頭筋、項頭半棘筋項棘筋、頭長筋及遂には頭項夾板筋等無力と爲るに由る僧帽筋は通常侵されざるものゝ如し唯發作の强度なるものに於てのみ或は共に侵さるゝやも知るべからずと雖も余は一回も之を見るの機に

會せざりし然らば則ち此等の諸筋は一定の神經の分布する所にして其神經の痲痺は頭首の下垂を來し得るやと云ふに彼の脫力せる諸筋は皆項椎神經叢より運動神經を受くる所のものなれども項椎神經叢は尙肩胛擧筋及其他の發作時に痲痺せざる筋にも枝別を分與するが故に該神經叢と痲痺とは直接の關係を有せず唯項神經叢の分布せる所謂深項筋のみ痲痺するなり而して副行神經並に分布せる筋は通常痲痺に與らざるなり

第三　舌口唇及咀嚼運動障害

第四　軀幹、四肢に於ける不全痲痺

余今回之を十分に實驗するの機に會せざりしと雖も數多の患者の述ぶる所と一二醫師の實驗とは共に相一致して余が目擊せし所と相對照するときは之を本病の症候として略述するの價値ありとす則ち强度の發作時に於ては舌運動の十分ならざるがために言語不明と爲り唇筋痲痺して飲食物及唾液は口角より漏泄し又咀嚼筋の無力を來すがために往々食物を碎破すること能はざるに至る然れども此等口の內外に起る所の障害は皆發作の强度なる者に於てのみ見る所にして本病必發の症候にあらず殊に咀嚼困難に至りては往々之を闕くことあり

軀幹に於ける痲痺は主として背側に位せる伸筋を侵すものにして身體を前方に屈したる位置より或は坐せる位置より起立すること能はざるに至る

上下肢の痲痺は之を使用するに當りて尤も起り易しとす例へば農夫の草を刈る者に於ては右手先づ痲痺し鎌は手掌に去りて地に落つと雖も左手は尙は未だ痲痺せず如何となれば草刈には右手に鎌を

握ると雖も左手は輕く草に觸るヽか或は全く之を用ひざるが故なり田の草を採り稻麥等を刈る者に於ては然らず兩手に力を用ふるを以て左右同時に痲痺するを常とす鍛工の槌を使用する者に在りては未だ項筋の痲痺せざるに當りて既に右手の無力を感ずるが如きも亦其例なり其他歩行しつヽある患者にして發作を起す者は既に頭首と眼瞼との下垂に由りて歩行困難なるに尙ほ下肢の不全痲痺を來すときは幾回か路傍に休憩して發作の經過を待つにあらざれば再び歩行すること能はざるに至る其他脈搏、呼吸、體温等の發作時に於ける關係に至りては余未だ之を明言する能はざるなり如何となれば余は勞の後に發作せる者のみを撿せしを以て脈搏、呼吸、體温の增進は之を勞働に歸すべきや將た之を發作に歸すべきやを明にする能はざる故なり

以上は發作時に於ける症候なれども次には發作の間歇時に於て如何なる症狀の存在するやを述べんとす則ち

第一、間歇時にある患者は毫も健康者と違ふ所なく一も本病の存在を指示する症狀を呈せざる者あり

第二、間歇時に於ても尙ほ上眼瞼少しく垂下し恰も充分睡眠せずして睡を思ふが如き顏貌を呈する者あり然れども此症狀を確認するに當りては慢性結膜炎又は「トラホーム」の有無を撿せざるべからず如何となれば該地方には此等の病患甚だ多く爲め眼瞼肥厚して恰も自然に下垂せるが如き觀を呈する者あるを以てなり又發作の強弱に從ひ間歇時に於ける項筋の力に於ても亦強弱ありと

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

す病輕き者に於ては項筋の力敢て常人と相異なることなしと雖も發作を起し易き者に於ては項筋の力著しく弱く指示を以て容易に其伸展力に抗抵し得へし故に試に患者をして首を垂れしめ外後頭結節部に一箇の布嚢を固定し入るゝに一定の重量を以てするときは項筋の力を測定し得へし余は此の如くにして此等患者の項筋を試驗し健康者に比して其力の著しく弱きを證明したり然れども一回も項筋の萎縮を認めしことなく頸圍も亦隨て減少せざるなり其他尙は間歇時に在存するの一徵候は上肢及下肢に於ける腱反射の亢進是なり此徵候は頗る多く見る所のものなれども足現象を起すに至らず

今左に本病の原因的研究に材料を與ふべき諸點を擧ぐれば左の如し

（未完）

衛生叢談

◉二十八年を迎ふ

去る明治廿七年は如何なる年ぞ我國の歷史上實に紀念に存すべき一大偉觀を現出したることを試みに征淸の一大戰史を撿し來れは朝鮮獨立の扶持より陸海軍の長驅平壤旅順の略守等我か帝國大和民族の義膽を廣く海外列邦に輝かし東洋の强國と迄絕叫せしめたることを然りと雖とも此等の壯擧は此一年を以て全うし得たるに非ず今や新たに明治廿八年を迎ふると同時に又新たなる偉勳を立て彼の奉天を破碎し北京を粉韲し覇を東洋に唱へて凱旋するにあらずんば一日も安んせざるなりされば尙本年國民の義務として務むべきは節約以て軍

隊の爲め各自及ぶ丈の力を盡すべきにあり今や二十八年を迎ふるに際し聊か所感を記す

◉藁灰繃帶の實驗談

防腐外科の始めて戰時に試みられたるは普佛大戰爭の時にして我國にても西南の役に始めて實驗せしか當時の療法は今日の如く進歩せざりしが菊池博士の藁灰繃帶を發明せられしより今回の負傷者に實驗するに好成績を得たりと此頃病の爲め歸朝せる某軍醫の語られしものを聞くに左の如し

九月十五日平壤劇戰の前二三日より平壤附近の各地に於て屡々小戰鬪あり當時予が勤務せる第一野戰病院は船橋里を距る約一里の處な塲洞と云へる地に開設しあり元來野戰病院の組織は院長一名軍醫九名其他看護長及び看病人若干名を職員として患者二百名を收容する規定なりしも平壤劇戰の時は特に二百八十餘名を第一野戰病院に收容したり當日は折惡く午後三時半頃より驟雨忽ち到り重傷者は民屋に容れたりしも倉卒の際にて所持の天幕も中々行き渡らず左れば輕傷の者は松の小枝を結び合せ又は黍殼藁などの類を枝間に束ねて僅かに創面に雨水の滴るを防ぎたり今其實況を詳細に語るは予の忍びざる所なり偖藁灰繃帶に要する原料たる藁は必ずしも清潔なるを要せず一度燒きさへすれば縱へ馬矢牛糞等の混じゐるとも毫も頓着なきゆゑ馬の寢藁にても差支なく用ひらるゝなり又藁は天下到る處無之はなく其價亦至廉にして經濟の點より云ふも從來の繃帶に比して夐かに勝る所なり此用法は藁を燒きて灰と爲し之を金巾又は木綿の端切に裹み大小幾種となく製し置きて之を用ふ但し創面の鹽梅によつて夫々異なるなり元來創

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

痍部面にバチルスの發育するは体温、空氣、食物の三元素による今此三元素中其一を缺く時はバチルスは片時も其生を保つ能はざるなり然るに体温を脱却するとは人の生命ある限りは出來得べからざるも創痍より液出する血膿即ちバチルスの爲めには食物とみるべきもの此血膿を乾燥せしむるは取りも直さず食物を絶つに異ならざるなり藁灰繃帶は創面の血膿を吸收すると強くして其効を收むる亦最も大なるものなり爰に藁灰繃帶に就きて一寸面白き話あり九月十五日に當り朝鮮國の一愚民金鳳記と云へる年齡廿五年位にして外貌屈强なる一青年が平壤の劇戰を恐れ同所を距る一里許の村落より旅裝して逃走中我軍隊の歩哨線を通過の際右の太股を銃丸にて打ち貫かれしが其創面の大さ凡二錢銅貨位にして溢血中々甚しかりし此日は前にも云へる如く二百八十餘名の怪我人を引受けしと故其多忙なる實に眼を廻はす計りなり左れど敵にても戰鬪力を失ひたる者は我軍隊に於て赤十字の旨趣に基き充分療治を加ふる位なり况や我軍隊に抵抗せざる金鳳記なればと思ひ第一野戰病院へ擔込み手術を施し遣りたり金は痛さに堪へ遣らでか高く聲を張上げて悲鳴し手も付けられぬ有樣にてありしが傍にある我軍隊の兵卒は金よりも幾層重き創にて第一號に入るべき身にてありながら（第一號は重傷者を入れ第二號は稍重き者と輕傷者とを入るゝものなり）金の膽力なき樣を瞥見して少しく笑を含みたる顏の何となく大人らしき振りは流石日本人の根性見えたりと人も予も共に倶に感激したり偖金は手術の後例の藁灰繃帶を施したりし金は最と不思議なる顏付ありしが日を

經るに從ひ創面は追々に癒え少し計りの散歩は出來得る迄になりたり或る日のこと金の創は如何ならんかと其病室を見舞ひしに床には人なく金の影も見えず看病人をして院内隈なく搜索せしめたるも更に其所在を得ず日沒の頃に至るも何の音沙汰なし去るにても金は如何せしぞ吾軍隊にて手厚き療養を受けながら其恩を忘けて逃げ去りしかと一時は予も聊か立腹したりき翌日午前十時頃に至り金は何處よかり飄然歸り來り小やかなる包を予の前に捧げ揖して禮を爲せり予は朝鮮語を解せざる故通辯人をして其意を問はしめたるに金の言へるには巳に銃丸に仆れたる此身をして再び天日を拜すその榮を得たるもの眞に閣下の恩惠に因る今此煎豆菲薄なるも昨日杖によりて近郷まで歩み自ら購ひ得たり聊か報恩の微志を表せん又藥灰は如何なる譯にて創痍の癒ゆるにやと問ひたりしかば予も是に於て始めて昨日來金の見えざりし次第を知り且つ金が跛を忍びて態々近郷まで歩を運び煎豆を齎らしたるの誠意に感じたり

之を要するに創傷の第一期に於ける防腐療法は啻に生命上の豫後に好成績を期はずに止らずして肢体の保存に於て從來の治療法の如く一二患部の爲めに手を斷ち脚を切り落すが如きとわらざるに依り家郷にありて出征軍人が負傷したりと聞き足の無き不具者となりしかと忽ち速斷するは杞憂と云ふべくされど平壤の一戰に僅々二百八十餘名の負傷者を取扱ひたる予一個の考にて防腐外科は如何なる程の好成績を顯はしたりと斷言するは聊か憚る所なるも從來の療法に比して勝れること數等なるは事實なり兎に角外科療法の進歩したる一

點は國家の爲め慶すべく賀すべきの至なりと云々

●人類の年齡と事業の關係

北米合衆國紐育の大學教授ジォール、オエム、ベールドは人類の年齡と精神との働作及事業の關係に附きて調査を爲し年齡三十年乃至四十年は金季にして四十年乃至五十年は銀季、五十年乃至六十年は鐵季、六十年乃至七十年は錫季、七十年乃至八十年は木季なりと言へり且つベールドの調査に據れば世界に顯れたる事業の七割は其齡四十五年前の成効に係り現に神學、心理學、哲學上に著名なる大發明の過半は其齡二十年乃至五十年間の結果にあらざるはなし動物及植物の如きに在りても亦其中年を以て金季とす即ち馬の命數は二十五年內外を以て其の極度とするものあるが最も能く使用に堪ふることは其齡八年乃至十四年間に在り其他犬の命數は九年若くは十年を極度とするものにして最も能く獵用に適することは其齡二年乃至六年間に在り又セー、ゼー、カルドウエルは老年に及び腦中に來すべき變化を以て死去と同一の狀況と爲し且つ人類の死去することは死去の瞬間に起る急遽の出來事にあらず全く精神上に衰耗を來したる漸次の經過なること甚だ多しと言へり是に由りて之を觀れば老人の死去は其肉體の死去する前十年乃至十五年に於て已に死の端を開き其狀恰も樹木の頂上より枯れ始めて其幹に達するが如きものあるに似たり而して忿怒、貪吝、窄量、好爭、好色、復讐其他之に類する精神の盛に發生するは皆精神衰弱の徴候なりと言ふことを得へしと一々例證を擧けて說明せられたりと

●醫者の氣轉

或る諸侯在國の節夜食に蕎麥を多く食せられしが食合せの惡かりしにや腹は脹滿の如く膨れ吐瀉も無く悶絶して苦しみ手醫者等集りて療養致されしかど其効無し此時近習の士曰く御領分の山中に蟄居爲し居る丹山と稱する隱士あり醫道は功者にて難症に罹る者は態々此山中へ治療を乞ひに參るとか承知せり彼の者を召させられてはと聞え上げしに仔細無し早々呼べとの上意にて丹山を召して診察を爲さしめたるに丹山の曰く昨夜喫召たる蕎麥を是へ出し玉へとて蕎麥を打たせ其蕎麥を無理に國主の口中へ入れたるに嗅ひだに鼻に附く如き蕎麥を口に入れたれば忽ち嘔吐を催し停滯の蕎麥悉く吐て立所に全快爲し玉へりといふ這は醫術外の氣轉といふものなり

因みに記す中古落語の名人と云れし立川金馬は御みやげ咄しとて毎夜小咄しを澤山せり其金馬の咄しに兩國橋の袂にて難產に苦しむ女乞食ありて出產の兒が局部より片手を出し居れり仲間の者八方に奔走致せど如何とも詮術をしらず折柄通り掛り玉ひたるは當時元大坂町にありて大繁昌を極めたる接骨師名倉彌次兵衛氏あり斯と聞て見物の人を押分け入りて其爲体を見られ軈て腰提より錢一文を出して其手に握らすれば押戴きて其手を引込ませしとあり巧みなる作といふべし此作者は初代むらくなりと

◉惡症の感冒流行

去月末つ方より俄かの寒氣ありし爲め之に感染せしものか府下に惡症の感冒流行し其症は熱も強く恰もインフルエンザ症あり之を押して手當をせざる時はインフルエンザとなり遂に治療も長引き

餘病を發するに至る人々注意すべき事なり

曲亭馬琴の雜記中に安永以來の流行風と題せる書中に流行風の異名を掲けたりいと興あるものあれば茲に掲ぐ

予か(馬琴自ら云ふ)東西を覺えし頃より大約四十年以來時々の寒冒に世俗の名を負はせしもの少なからず先づ安永の中頃に流行風を「お駒風」と名つけたり、こは白木屋お駒といふ女の事を旨として作り設けたる淨瑠璃のいたく行はれたればなり又安永の末にはやりし風を(お世話風)と名づけたり、こは「大きにお世話お茶でもあがれ」といふ噺語の流行せしに依りてなり又天明年中にはやりし風を「谷風」と名付けたり、こは谷風梶之助は當時無雙の力士なりければ之れに勝つものあると稀なり谷風曾て傲言して、とてもかくても土俵の上にて我を倒さんとは難かり我か臥したるを見たくは風邪に罹りたる時に來て見よかしと云ひしとぞ此事世に傳へ聞えて人々話柄となしたる時件の風邪を谷風かいちはやにひき初めしとぞ遂に其を負せしとあり去れば此時四方山人送ル二風神ヲ一狂詩あり曰く引二道ノ此風一號ス二谷風ト一咳鬨々咳響二東西ニ一。惡寒發レ熱人ニ無レ色。煎樣如レ常數有レ功。一片生姜和レ酒ニ飲ミ。半丁豆腐入レテ湯ニ空シ。送レ君四里四方ノ外。千住品川問屋ノ中。」又文化元年に流行せし風邪を「お七風と名づけたり、こは八百屋お七といふ、ゑせ小謠の流行せしに依りてなり又文化五年の秋はやりし風邪を「ねんごろ風と」名付けたり又文化文政四年の春二月頃いたく流行せし風を「たんほう風と」名づけたりこは此ときの流行小謠に「たんほうさんやく／＼と」歌ひしことのあればなり、こは西國よ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

り流行初めてこゝまで移り來つればならん此うち(谷風)(れ七風)(ねんころ風)(たんはう風)は烈しかりき家々毎に五人三人枕を並べて打臥さぬはなし西は京攝に至り東は安房上總、西南は甲斐伊豆の海邊、北は信濃越後迄あへて免るものなかりしよし云々

●大日本婦人衛生會々況

十二月一日第一土曜日午後一時より麴町區富士見町五丁目富士見倶樂部に於て例會を開く來會者凡そ五拾餘名第一席宮本仲君には入浴に就て演說せられ次にドクトル入澤達吉君には身体の運動に就て演說せられしが散會せしは四時半頃なりき

廣告

●去二十七年十月中本會有志會員より征淸軍隊へ綿入チョッキ寄贈に付決算報告をなすこと左の如し

一金二百八拾四圓九十壹錢八厘五毛　收入高

内譯

金三拾圓　總裁殿下ヨリ恩賜金

金八拾四圓　寄附金

金三拾圓九十壹錢八厘五毛　寄附綿代

金百四拾圓　三井戻金

一金二百三拾壹圓二錢九厘　支出高

内譯

金百六圓四十錢　切地三十五カマ代

金七十六圓　綿長打六百六十七枚

金十一圓二十六錢　郵税

金三圓六十八錢　會章四個朱肉百目肉入二個

金拾壹圓十錢八厘　莚縄荷札荷造手間料

金七十一錢五厘　旗及旗竿五十本
金三圓八十錢　金巾卅五ヵマ裁切料
金壹圓六十五錢　荷物運搬車代及滊車積荷料
金壹圓八拾錢　通知並印刷料
金七圓八拾六錢六厘　謝狀版木二個狀嚢八百枚用紙千二百枚
金六圓七十五錢　席料及茶油炭其他雜費

右決算後左の二氏より軍隊寄贈費の内へ寄附せられたり

金貳圓　高橋清子
金壹圓　村岡久野子

◉明治廿七年十二月より仝廿八年一月に至る入會者左の如し

◉評議員宮本樂子の紹介により
本郷金助町三十七番地　通常會員　吉原りよう子
函館區船見町五十八番地　通常會員　深瀨たか子
仝會所町二十番地　仝　渡邊なつ子
仝　五十一番地　仝　田澤みつ子
仝　仝　藤野とく子
仝　惠比須町七番地仝　藤野くら子

◉幹事加藤常子の紹介により
麻布本村町百七十八番地　通常會員　嶋村米子
麴町元園町一丁目十一番地　仝　市尾はつ子

◉會員前川てる子の紹介により
神戸山本通り五丁目幼稚園　和久山きそ子

大日本婦人衛生會

一、正誤　本會雜誌六十號寄附表中宮本らく子の分糸仕立八枚とあるは糸綿御支出仕立八枚の誤りに付正誤す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會規則

第一條　凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條　本會の會員たらんと欲する者は身分の尊卑を問はず何人にても入會することを得

第四條　會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し

但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條　本會々員を分て終身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす

但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條　男子にして本會の主義を贊成する者は之を贊成員とす尤も會費は本會員に同し

但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身贊成會員(無會費)とすると有る可し

第七條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條　本會は左の役員を置く　會長一名　副會長一名　幹事七名　評議員二十名　書記若干名

第九條　會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰擧し書記は幹事の推撰により會長之を命ず

但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托することあるべし

第十條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記錄及雜務を掌る

但幹事の分課を設けて第一　會計　第二　編輯出版　第三　庶務とす

第十一條　會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くとあるべし

第十二條　會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤も再撰するも妨げなし

第十三條　會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條　本會の集會は七月八月を除くの外毎月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條　毎會學識經驗ある者を聘し講義演説を囑し本會々員の演説と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し毎月各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす

但し演説の間に談話を交ゆる事あるべし

第十六條　會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむるとを得

第十七條　講義演説の際男子の傍聽を禁ず

但會員に縁故ある男子は此限にあらず

第十八條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

但些少の金額は日々の費用支出の爲め事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

務所に引出置を得

第十九條　會計の收支は總て會計課幹事の撿印を要す

第二十條　會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條　會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し

但不得止場合には郵便劵を代用するも妨けなし尤も一割増とす

第廿二條　入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便劵二錢を添ふ可し

第廿三條　毎年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し且規則改正の案あれば之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す

但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すことを得

第廿四條　毎年三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條　規則の範圍內に於て役員の評議を以て其細則を設くることを得

第廿六條　各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得

但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經べし

第廿七條　本會の集會塲は時々報知する者とす

第廿八條　會費金は受領證を付與すべし尤も小爲替又は郵便劵にて納むる者は右受領證遞送費として郵劵二錢を添ふべし然らざれば受領證は送付せざるものとす

第廿九條　入會後轉居する者は速に事務所に通知ある可し尤も死去の節は親戚知友等より通知ある可し

第三十條　退會せんとする者は會員證を添へて其旨事務所へ報知あるべし

明治二十五年九月

東京下谷區練塀町四十三番地

私立 大日本婦人衛生會

明治廿八年一月二日印刷
明治廿八年一月四日發行

發行所　東京下谷區練塀町四十三番地　大日本私立婦人衛生會
編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中徳三郎
印刷者　同　神田區小柳町十三番地　小高良造
印刷所　同　神田旅籠町貳丁目拾一番地　廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可　第一金曜日發行

（定價金拾錢）